

ウデアル。78, 79, ト順次ニ擴大シテ見ル。落葉カラ驅逐艦隊ノ空中寫眞ノ最後ニ鰹節トナツテ、ソノ細イ形態ヲアラハス。79 圖デ縱縞ヲナシテ走ツテキルノハ色素體、一列ニ並ブ圓形ハ Pyrenoid デアツテ、此ノ周圍ニハ澱粉粒ヲ具ヘテキルノデ g. g. Kalium ニテ染メテハツキリト示シタ。最下ノ Pyrenoid トソノ上ノモノトノ間ニアル白イ部分ガ丁度、體ノ中央ニアタルノデアツテ、良ク見ルトーツノ核ガ認メラレル。體ノ上部ニハ少シク明瞭ヲ缺クガーツノ腔胞ガ存シ、中ニ薄黒イモノガアル。コレハ小サナ石膏ヲ集リデアツテ、細胞ガ生キテキル間ハ腔胞内ニテ微動シテキルガ、細胞ノ死ト同時ニ此運動ハ止マル。接合状態ハアマリ見ラレナイガ、増殖ハ主トシテ分裂スル事ニヨツテ行ハレ、ソレモ夜間ニ見ラレル。生キタ個體ハソノ長軸ヲ含ム面内デ、一端ヲ固定シテ振子ノ運動ヲナス等、顯微鏡下デ色々我々ノ御機嫌取りニ急シイ。

採集地：東京文理大構内水鉢中 (May 1934)

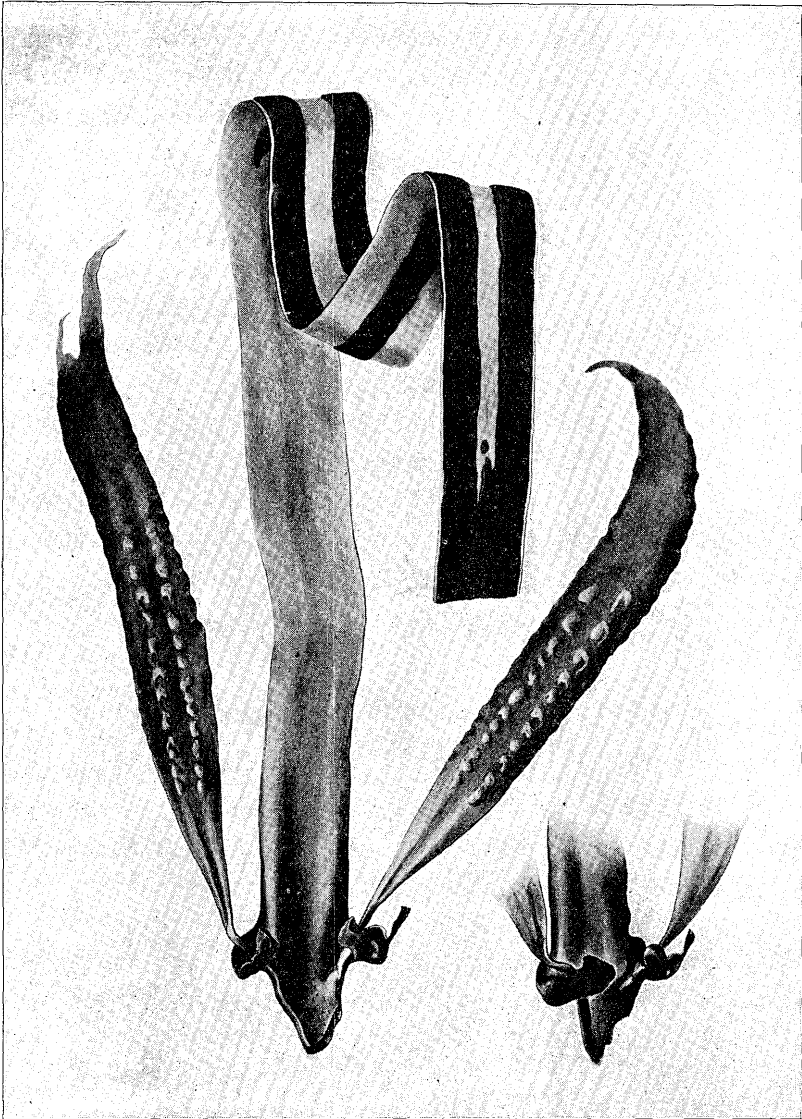
ねこあしこんぶニ關スル二三ノ觀察

山 田 幸 男

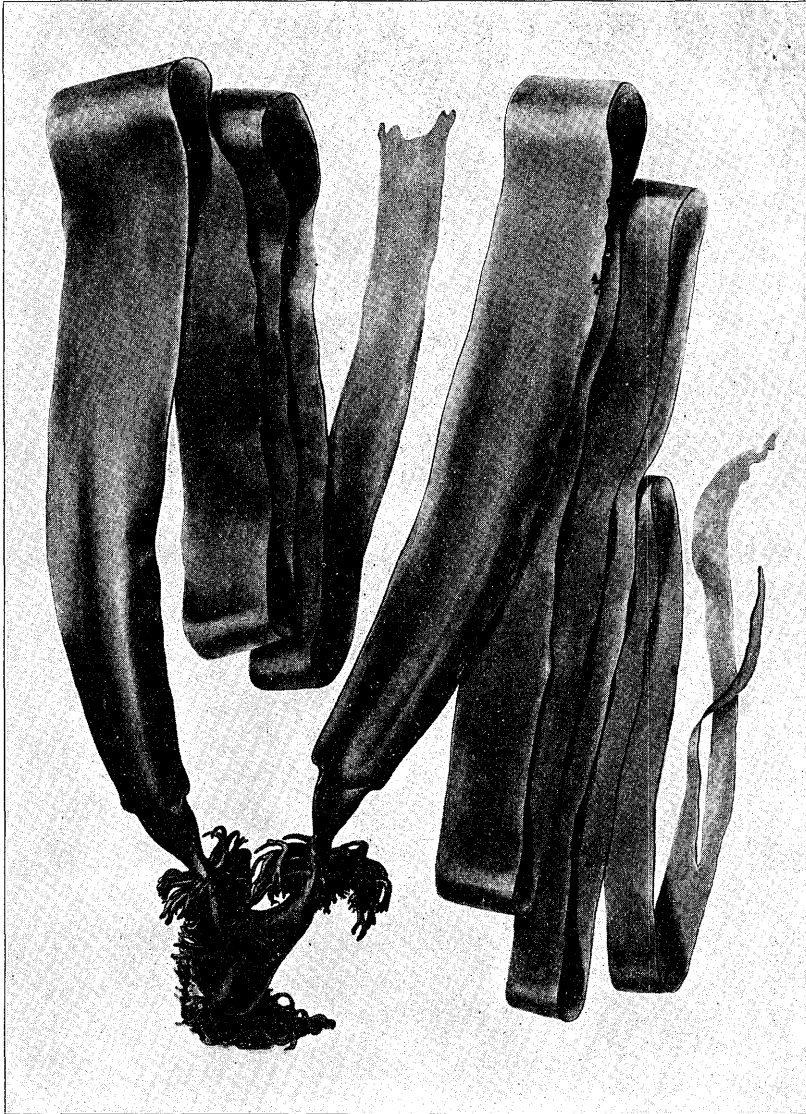
Y. YAMADA: On *Arthrothamnus bifidus* J. AGARDH

ねこあしこんぶ (*Arthrothamnus bifidus* J. AG.) ハ北海道釧路、根室邊カラ千島ヲ經テベーリング海並ニアリューシャン群島アタリニ迄分布スル昆布科植物ノ一員デアアルガ、同ジク千島並ニ樺太ニ産スルちしまねこあしこんぶ (*A. kurilensis* RUPRECHT) ト共ニ特殊ナ一屬ヲナシテキル。コノねこあしこんぶニ就テハ、ソレガ 1768 年 GMELIN ニヨツテ *Fucus bifidus* ノ名ノ下ニ報告セラレ、更ニ 1848 年 RUPRECHT ニヨリ *Arthrothamnus* ナル新屬トセラレ *A. radicans* ナル名稱デ公ニサレテカラ以後詳細ナ研究ハナカツタノデアアルガ、1903 年ニ至テ故遠藤吉三郎博士ハ北千島滯在中ニ於ケル觀察ニ基イテ甚ダ詳細ナ報告ヲ植物學雜誌第十七卷中ニ發表セラレタ。

筆者ハ札幌ヘ赴任後毎年厚岸臨海實驗所附近ニ於テ屢々コノ種ヲ觀察スル機會ニ恵マレテ居ル。ソコデ先年先ヅコノ種ノ有性世代ノ培養ヲ試ミ度イト思ツタノデアアルガ、コノ種ノ子囊班ニ就テハ文献ニ記ス所甚ダ尠ク、僅カニ明治 35



第 1 圖 ねこあしこんぶ *Arthrothamnus bifidus* J. Ag. (ca. 1/3)
昭和九年三月 釧路國厚岸町附近ニ於テ山本宮五氏採集ノモノデ、
子囊班ヲ有シ、耳形體ノ基部カラ次代ノ體ヲ生ジタモノ。



第2圖 ねこあしこんぶ *Arthrothamnus bifidus* J. Ag. (ca. 1/3)
昭和九年七月千島色丹島ニ於テ川端清策君採集ノモノデ子葉斑ハ
ナク、兩葉ノ基部ニ耳形體が見ラレル。

年發行ノ北海道水産調査報告第三卷、昆布採取業ノ内宮部金吾博士ノ執筆ニカ、ル“分類”ノ内ニ「明治26年6月千島國新知島ニ於テ採集セル標本ニヨレバ葉ノ一面縁部ニ2列ノ房群アルヲ認ム」トアルト故遠藤博士著海産植物學ニ生殖ハ充分ニ知ラレズ。子囊班ハ中帶及ビ縁部ヲ縦走シテ生ズルヲ見タリ。其ノ精細ナル諸點ハ不明ナリ。」トアルニ過ギナイ。然シ六月頃ニハ勿論、9月、10月、11月ト月ヲ追フテ此ノ種ヲ採取シテモ、厚岸地方ニ於テハ一向ニ子囊班ヲ見ルコトガ出来ナカツタ。ヨツテ子囊ハ必ズヤ冬期ニ於テ生ズルニ相違ナシト見當ツツケ、厚岸臨海實驗所ノ羽田學士並ニ同所ノ山本宮五氏ニ依頼シテ冬期中ノ材料ヲ得ンモノト心懸ケテキタ所、幸ニシテ一昨年3月初旬初メテ子囊群ヲ有スル標本ヲ手ニ入レルコトガ出来、ソノ游走子ノ培養ハ北大理學部植物學教室ニ於テ行ハレ、有性世代ニ就テハ神田理學士ガ北大海藻研究所報告第一號ニ報告シタ。次デ本年3月再ビ山本氏カラ厚岸町トコタン海岸ニ打揚ゲラレタル標本ヲ送附シテ貰ツタ。ソレ等ニヨツテ子囊班ハ圖ニ見ル様ニ、先ヅ葉部ノ裏面ニ、中央部幅1—2 cm. ト兩縁ヲ極ク僅カバカリ殘シテ2列ニ並行シテ生ジ、後此ノ2列ハ合シテ或部ハ(特ニ上部ニ於テ)一ツニナル。更ニ後ニハ表面ニモ生ズルニ至ルガ、コノ際ニハ1列、シカモ裏面ニ於テ子囊班ノ生ジテキナイ中央部ニ相當スル邊ニ1列ニ生ズル。子囊ハ棍棒狀デ長サ 110μ 内外、幅ハ最モ太イ部デ 13μ 内外アル。側糸ハ甚ダ細長ク、長サ 160μ 内外デ、下部ハ細ク上部ハ段々ニ太クナリ、内容モ上部ノ方ガ多クナル。幅ハ最モ太イ部デ 7μ 内外アリ、頂端ニハ高サ約 40μ 位ノ寒天質ノ帽ヲ戴イテキル。扱テ上ニ葉部ノ“表面”並ニ“裏面”ト云フコトヲ記シタガ幸ヒコノ種ハ基部ガ匍匐シテ居ルカラ葉部ノ表裏ハ明ニ見別ケラレル。然ルニ他ノ昆布類、特ニ昆布屬(*Laminaria*)ノ諸種ニ於テハ表裏ノ區別ガ仲々厄介デアリ、從ツテ同一ノ種ノ子囊班ノ記載モ、或ハ表面ニ生ズルトイヒ、又或ハ裏面ニ生ズルト稱セラレ甚ダシクマギラハシイコトガアル。然ルニ本種ニ於テハ表面ハ葉部ノ基部ニ於テ中央部(本種デハ中帶部トハ稱スル程デハナイガ、多クノ昆布類ニ於テハソレニ相當スル部デアル)ガ凹ンデキル方デアル。筆者ハ昆布類ニ於テモ葉ノ表面ハ中帶部ノ基部ガ凹ンデキル方ト信ジルガ、ねこあしこんぶニ於テモ矢張り同様デアルノハ當然ノコト、思ハレル。

次ニコノ屬ニ特有ナ耳形體カラ次代ノ體ヲ形成スルニ至ル迄ノ過程デアルガ、コノ點ニ就テモ今マデノ記載ヨリモ幾分詳細ヲ知り得タノデ次ニ記述シテミル。厚岸産ノ標本ニヨレバ、コノ耳形體ハ全體トシテ餘リ伸ビナイ。今迄ノ記載ニハヨク「コノ耳形體ガ伸ビテ新シイ葉トナル」トアルケレドモ、シカク簡

單デハナイノデアル。コレハ伸ビテモ精々 4—5 cm. 位ノモノデ邊緣ノ方ハ薄クビラビラニナリ膨レガ出來ル。ソシテコノ耳形體ガ生長シテ新葉トナルノデハナイ。耳形體ノ伸ビル際ニハ體ノ基部ノ方ニ近イ縁ガ上ノ方ヨリモ餘計ニ伸ビ、耳形體ハソノ下部ノ縁ニ於テ内部ヘ向ケテ幾分卷キ込ム様ニナル。ソシテソノ一番内側カラ新シイ若イ莖ガ生ジ、ソノ上ニ新葉ヲ付ケルノデアル。而シテコノ新葉ニハ 2 列ノ膨レ (bullation) ガ見ラレル。遠藤博士ニヨレバ第一次ノ葉 (有性世代カラ生ジタ新植物ノ意) ニハ膨レガアル様ニハ記載セラレテキナイガ、後代ノモノニハ判然ト存在スルコトハ面白イコト、思ハレル。カクシテ生ジタ新シイ莖ハ 2 本トモ共ニ内部ニ向ツテ捩レテキル。耳形體ハ後ニハ當然枯落チルモノデアルガ、ソノ落チタ跡ハ判然ト後マデ残り、ソレガ表面カラ見ルト外下カラ内上ニ向テ記サレルノデ新シイ莖部ガ捩レル事實ガー層強ク印象ヅケラレル。

終リニ筆者ノ依頼ニ應ジテ材料ヲ採取送附サレタ上記羽田良禾學士並ニ山本宮五氏ニ深謝スル次第デアル。

主 要 文 獻

1. AGARDH, J. G.: De Laminariis (Lunds Univers. Arsskrift, vol. 4, 1867)
2. GMELIN, F. J.: Historia Fucorum (1768)
3. 神田千代一: 二三ノ昆布科植物ノ配偶體ニ就テ (北大理學部海藻研究所報告, 第 1 號, 昭和 8 年)
4. 宮部金吾: 北海道水産調査報告, 第 3 卷, 昆布採取業 (明治 35 年)
5. 岡村金太郎: 日本藻類圖譜, 第 5 卷 (大正 14 年)
6. POSTELS, A. & RUPRECHT, F.: Illustrationes algarum etc. (1840)
7. RUPRECHT, F. J.: Bemerkungen über den Bau und das Wachstum einiger grossen Algenstämme etc. (Mém. de l'Acad. Imp. des Sci. Nat., vol. 6, 1848.)
8. YENDO, K.: *Hedophyllum spirale*, sp. nov. and its relation to *Thalassio-phyllum* and *Arthrothamnus* (Bot. Mag. Tokyo, vol. 17, 1903)
9. 遠藤吉三郎: 海産植物學 (明治 43 年)